

問 生活交通網の確保は急務

答 対策委員会で検討中である

山根 昇 議員

問

合併して一番遅れているのは、生活交通の確保である。4町を結ぶ幹線と枝線ルートで巡回し、低額運賃にすべきである。合併した京丹後市は200円バスを市内全域に運行拡大している。1町3村が合併した長野県木曾町は、巡回バスと乗り合いタクシーを組み合せ、全集落を巡る「命の交通網」がつくりあげられている。運営費は運賃収入と赤字は特別交付税と町財政で担っている。市民アンケートや試行運転の早期実施を行い、市内全域の交通網の確立は、まったなしである。

市長

神姫バス廃止の染河内地区で、4月から住民の協力で運行する。全市的な計画を検討しているところである。

問

播磨科学公園都市で計画のごみ処理施設のガス化溶融炉方式は、稼働している施設でトラブルが相次ぎ、補修費が増大、自治体財政を圧迫している。大型炉で技術が未熟と問題になっている。環境や減量化からも大型炉を見直すべきである。市外搬出で全てのごみを処理するのは経費もかかる。リサイクルからも市内の廃棄物業者で処理できるものは委託すべきである。

市長

燃焼方式は再検討している。90トン炉まで縮小している。業者委託は検討してみたい。



染河内地区送迎バス (思いやり号)

問 給食センターの統合をすべきと思うが

答 検討する必要がある

木藤 幹雄 議員

問

給食センターの統合についておたずねします。六粟市の給食センターの現状は、平成19年の給食可能数は7,550食、必要数は4,449食、率にして58.9%、平成23年の予測は、必要数4,133食、率について54.7%になります。行財政改革の取り組みからも給食センターを統合すべきと思うが。

市長

このことについては、厳しい財政状況の中で、検討を要すると考えておりますが、運搬距離等の事を考えますとすべてを統合することは困難であります。しかしながら、行政改革の観点からも、統合については検討する必要があると考えております。

問

空き缶・空き瓶・タバコのポイ捨て防止条例の制定についておたずねします。旧山崎町の時より、数回にわたり質

市長

問をしたところ、十分指導し最善の防止策を講じ、環境保全に努めると答弁されましたが、いまだに制定されておりません。真剣に検討されたのかおたずねします。

空き缶・空き瓶のポイ捨て等は、市民の良好な生活環境の保全からも良い現象ではありません。六粟市としましても環境基本条例を制定し、ゴミ等の不法投棄を禁止しておりますが、おたずねの罰則規定については、市民の方々が環境保全協議会の意見を聞きながら、課題を整理し、対応したいと考えております。



山崎給食センター